



教育に新聞を

2020年度 大分県NIE 実践報告書

目 次

《実践報告》

自ら学ぶ授業づくり ～学習のツールとしての新聞活用～

中津市立山口小学校 教諭 中嶋 瑞貴 2

全校で取り組む楽しいN I E

大分市立鶴崎小学校 教諭 坂本 透 6

継続的な新聞活用による確かな学力の定着 ～N I Eという「扉」を全校で～

竹田市立緑ヶ丘中学校 教諭 佐藤 美登里 10

社会の出来事を知り、お互いに学び合おう ～「発信」→「交流」→「深める」～

日田市立戸山中学校 教諭 笹倉 直子 14

自ら学び、みんなで学び、社会とつながるN I E ～SDG sの学習を通して～

大分市立戸次中学校 教諭 小野 友祐 18

どう楽しむか？

大分県立別府翔青高等学校 教諭 坂口 智子 22

新聞から社会を学ぶ ～メディアリテラシーの確立を目指して～

別府溝部学園高等学校 教諭 堀井 忠大 26

新聞を通して考える 社会と自分

～新聞を通してさまざまな文章に触れる機会の確保～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 道中 聡 30

《2020年度大分県N I E実践指定校と活動》 34

《N I E実践研究会とN I E子ども会議》 35

《大分県N I E推進協議会 会則》 36

《2020年度大分県N I E推進協議会役員等》 38

【おことわり】 この報告書に記載されている所属・肩書は、2020年度当時のものです。

自ら学ぶ授業づくり

～学習のツールとしての新聞活用～

中津市立山口小学校 教諭 中嶋 瑞貴

1. はじめに

平成 28 年度より N I E 実践指定校として、本校では子どもが自ら学ぶ力(問題解決・情報活用能力など)をつけるためのツールの一つとして、新聞を活用している。

新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休校により、6月1日から授業再開となったが、本年度、各教科・活動で行った実践を報告する。

2. 学校としての取り組み

(1) 4年生以上を対象とした週末課題

〈内容〉

- ①視写・・・主に朝日小学生新聞「天声子ども語」を書き写す。改行などの記述のきまりを守って、15分の時間を設定して書く。
- ②意見文・感想文・・・関心を持ってほしい記事の中から、テーマや字数条件、自分の体験を交えて等の条件の中で書く。
- ③読み取り課題・・・朝日小学生新聞の記事から知ってほしいこと、時事問題を選び、問題を作成したものや、読売ワークシート通信。

(2) 図書館の取り組み

- ①新聞のカラー部分を使って貼り絵したしおりか、ブックカバーを図書館イベントの景品にした。
- ②新聞週間に、新聞のカラー部分を使って貼り絵した作品(希望者)コンクールをして掲示した。

- ③スクラップブックの設置・・・社会等で使えるような都道府県のデータが載った子ども新聞を図書館司書がスクラップし、冊子にまとめて図書館に設置した。



※新聞の貼り絵しおり(他にも柿などを作った)



※スクラップブック



※新聞が種類ごとに分けて置かれ、児童が休み時間や授業時に読みたい記事を探して読める環境作りがされている。

学校の広い廊下を生かし、新聞は廊下の棚に置かれている。子どもたちは廊下に新聞を大きく広げ、スクラップしたり記事を比べたりしながら新聞に親しめている。



3. 実践事例

(1)〈国語〉

①「新聞を読もう」・「言葉の意味が分かること」

(5年)

・新聞を読んで興味のある記事を見つける活動を行った。その記事に関する自分の考えを書き、友達の考えを聞いて考えを深めることができていた。最後に自分の考えや友達の考えを記事とともにまとめた。

②「あなたはどうか考える」(5年)

・現在の社会をより良くするために必要か必要でないかの意見文を書き、読み合う活動を行った。まず、新聞の投書を読み、「主張」、「根拠」という部分に分けて線を引き、文章の構成を学習した。

③「アップとルーズで伝える」(4年)

・新聞の写真の中から、自分が1枚選び、その写真がアップの写真、ルーズの写真なのかを判断し、その写真の効果について文に表す活動を行った。

(2)〈算数〉

○「100より大きい数」(2年)

・新聞記事の中にある100より大きな数を見て、読む練習をした。

(3)〈社会・生活科〉

①「町のためにはたらく人」(2年)

・地域の郵便局に行って分かったことや、資料を使って学んだ郵便局の仕事について新聞にまとめる活動をした。

新聞を書くまでの時間に、郵便局長さんの話や、資料から見て分かったことをメモにまとめておき、自分が一番心に残ったことを2つ選んで新聞にまとめた。

新聞づくりは初めてだったため、教師が見本を見せながら見出しから一緒に考え、思ったことだけでなく、分かったことを国語とも関連付け、文末に気を付けながらまとめるよう指導した。

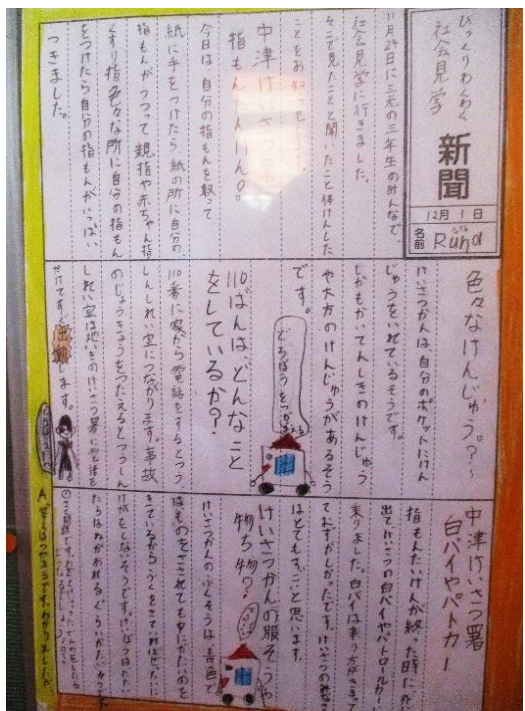


※2年生：ゆうびん局新聞

②「社会見学新聞」(3年)

・社会見学で訪れた中津警察署で分かったことを新聞にまとめた。

一人一人が見出しを考え、分かったことや考えたことを詳しくまとめることができた。



※3年生：社会見学新聞

③「ごみのゆくえ」(4年)

・食品ロスなどの新聞記事からごみがどのように捨てられ、処分されているのかに興味を持たせ、ごみ処理現場の学習へとつなげていった。

(4)〈体育〉

○「表現」(5年)

・新聞1枚になりきり、新聞の動きを体で表す活動を行った。高学年だが恥ずかしがらずに大げさになりきる児童が多く、体を丸めたり、広げたり、横になったりと体を大きく使って表現することができた。

(5)〈図工〉

①「新聞となかよし」(2年)

・新聞紙を折ったり、丸めたり、破ったりしていろいろなものを作った。

大きな紙を折ったり、破いたりするのははじめての経験だった。新聞独特の柔らかい感触を楽しみながら丸めて遊んだり、筒状にして剣のようにして遊んだりと楽しい時間になった。

②作品ばさみに利用した。(5年・3年)

(6)〈総合的な学習の時間〉

①「ミニトマトの養液栽培」(3年)

・地域で行われているミニトマトの養液栽培に興味を持ち、ビニールハウスの見学に行った。そこで知ったことや見たことを新聞にまとめた。

新聞を作る際は、本物の新聞を手本にししながら自分の驚きや感動が伝わるよう、見出しを工夫するなど意欲を持って取り組むことができた。

②「八面山新聞」(4年)

・地域の山で、中津市のシンボルでもある八面山について調べ、分かったことを新聞にまとめた。山の伝説、観光スポットなど見出しや写真も使ってまとめ、本格的な新聞に仕上げることができた。



※4年生：八面山新聞

(7) その他

①「新聞記事紹介」(放送委員会)

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来の昼の放送(インタビューなど)ができず、その代わりとして子どもたちが考えたのが「新聞記事紹介」だった。

気になる記事を見つけ、その内容を自分なりにまとめて紹介した。時事ネタを紹介することもあれば昔の興味ある記事を紹介したこともあった。

「レジ袋有料化」の記事は、レジ袋が有料になる当日に紹介したり、「サザエさんのオープニングに中津市の観光名所が紹介されている」の記事は、オープニングが放送されてからしばらくたって、「皆さん気づいていましたか」と紹介したりするなど放送時期を工夫して放送していた。

放送を聞いていた子どもたちも、知らない情報を知ったり、その記事に興味をもつことができた。

②「切り抜き新聞グランプリに挑戦」(1年)

・自分の好きな記事や写真を切り抜いて世界で一つだけのオリジナル新聞を作った。日頃あまり新聞に触れることが少ない子どもたちも、自分のお気に入りの記事や写真を見つけるために、たくさんの新聞に触れ、家の新聞から、気になる記事を見つけて切り抜いてくる子がいるなど、生き生きと活動する姿が見られた。切り抜き新聞を作りながら、子どもたちに、新聞の題名や見出しについても説明した。



※1年生：切り抜き新聞グランプリ

4. おわりに

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、多くの学校行事や普段できていた学習の機会が減ってしまった。

しかしそうした中でも、変わらず学校にいなながら最新の情報、地域の情報を手元に取り出すことができるという新聞の良さを改めて確認することができた。また、委員会活動では、子どもたちが新聞ならではの良さに気づき、自ら学びのツールとして生かそうとすることができた。

本校は今年度は、実践指定校として最終年度だが、これからも新聞が子どもたちの自ら学ぶ時のツールであり続けるよう、教職員で情報を共有し、学習環境を整えていきたい。また、5年間の実践成果を市・地域の学校に環流していきたい。

全校で取り組む楽しいN I E

大分市立鶴崎小学校 教諭 坂本 透

1. はじめに

本校は「自ら学び、自分の考えを進んで表現できる子どもの育成」を研究テーマに掲げている。そして～UD（ユニバーサルデザイン）とN I Eを取り入れた書く活動の工夫を通して～を副主題としてN I Eを取り入れた実践に全職員で取り組んできた。

日常的に取り組めるN I Eの在り方を探ったり、子どもたちが新聞に興味を持てるよう提示の仕方を工夫したりすることで、子どもたちも新聞に慣れ親しんできていると実感している。以下に本年度の実践を紹介する。

2. 本年度の実践について

①新聞に親しむ活動

(ア) 新聞閲覧コーナー（1F東階段）

子どもたちが登校し、毎日必ず目が行く場所に大分合同新聞や毎日新聞（他4紙）計6紙の新聞を並べ、いつでも読めるようにした。また「今日のトップ記事」のコーナーを作り、その日の知ってほしいニュースを掲示した。



(イ) 朝日小学生新聞コーナー

⇒図書室内に設置。

(ウ) 各学年のN I Eコーナーの充実

学年ごとにN I Eコーナーを設置し、取り組んだワークシートや、各行事や体験活動で学んだことを新聞にまとめたもの等を掲示した。

また内容や更新する時期を各学年に適宜呼びかけ、最新で統一された掲示物となるよう心掛けた。



※4・5・6年大分合同新聞ワークシートより



※4年生 「タイムスリップ新聞」

1年間でできるようになったことや行事等を振り返って学んだこと等

(エ) 本校が取り上げられた新聞の掲示

⇒校長室前

- ・ N I E子ども会議・水害時の対応
- ・ N I E授業の様子 等



ろんなアイデアを持ち寄り工夫できることが充実感や達成感へとつながっていった。



②新聞を使った取り組み・新聞づくり

<インプット活動>

(ア) 朝のN I Eタイムの実施(毎週金曜日朝)

低学年・・・新聞に親しむ活動

N I Eワークシート

吹き出しバトル (G Xジュニア)

中学年・・・新聞切り抜き

N I Eワークシート

吹き出しバトル

高学年・・・新聞切り抜き

N I Eワークシート

吹き出しバトル

大分合同新聞社の新聞販売店のご協力により本年度も多くの新聞と接することができた。

「吹き出しバトル」は毎回入賞者が校内で発表されることや、自分なりの発想で考え決定することができることから、子どもたちは毎回楽しみにして取り組んでいた。

(イ) 「おおいた切り抜き新聞グランプリ」への全校参加

はじめは戸惑っていた低学年の子どもたちもコツをつかむと新聞の記事を集めるのに夢中になっていた。クラスによってはグループで取り組んだクラスもあり、協力する楽しさやい

※2年2組の切り抜き新聞グランプリの取り組み



※2年生の作品



(ウ) 新聞活用による「運動会スローガン」の作成

新聞のカラーの部分を用いてちぎり絵による運動会スローガンを作成した。

各クラスで文字を分担し、一人一人が確実に参加できるようにした。



は子どもたちが学ぶべき建物や行事があふれている。本年度は新型コロナウイルスの影響により中止となったが「鶴崎踊り」もその一つである。「地元つるさき」の魅力が伝わるよう代表的なお祭りについての記事を紹介している。



(エ) 新聞の作成 (新聞コンクールへの参加)

各学年の行事や体験活動後には、学んだことをまとめ、新聞作成をした。

1年・・・見学遠足のまとめ新聞づくり
(アフリカンサファリ)

2年・・・見学遠足新聞
(うみたまご・高崎山)

3年・・・鶴崎新聞
(つるさきのよいところ等)

4年・・・社会見学新聞
水辺の楽校新聞
(川の生きもの新聞や乙津川新聞等)

5年・・・田植え新聞
のつはる新聞

6年・・・修学旅行新聞

(※3年・5年・6年は学校新聞コンクールへの出展)

(オ) 「ふるさと学習」において『鶴崎の魅力』を発信

⇒3階西階段

本校は140年以上の歴史があり、周りに

③校内研修との関わりについて

年度初めの研修時にNIEの意義や取り組みの具体を共通理解し、意思統一をした。本校の学力の課題である「書く力」を養うため、与えられた文章を読み、条件に合う文章を書くことを取り入れた。

具体的な方法 (毎月末の金曜日)

(ア) NIE担当が新聞記事を選び、各学年に配布する。

(イ) 各学年の発達段階に応じて課題を決める。

例) 要点を〇〇字以内にまとめる

理由を〇〇字以内で書く

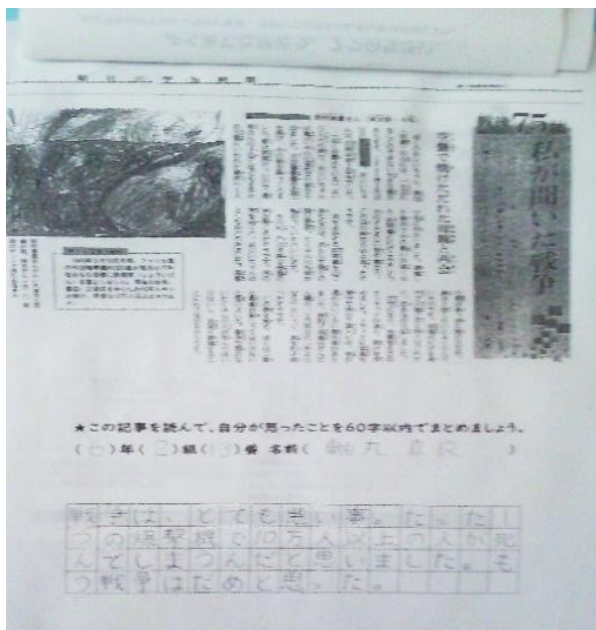
記事を読んで感想を書く

(ウ) ワークシートを作成し、金曜日のNIEタイムで実施する。

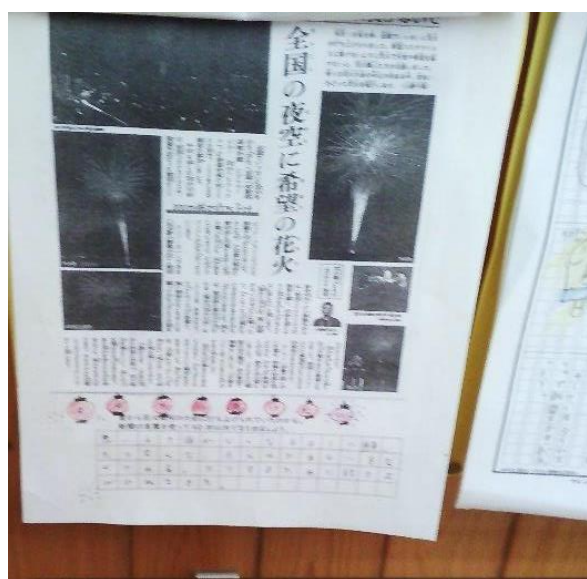
(エ) 各担任が添削し、各学年のNIEコーナーに掲示する。

※作文用紙の使い方や文字数に気を付ける。

※算数科の算数日記と並行しながら「書くこと」に慣れさせていく。



※ 6年生ワークシート
「平和」についての記事



※ 4年生ワークシート
「花火」についての記事

3. おわりに

校舎の中のさまざまな場所に新聞があるということは、新聞を身近に感じ、親しめるようになる大切な環境である。その場所に立ち止まり、記事や他の友だちが書いたものに目を通す児童を見ると、とてもうれしく感じる。

低学年の子どもたちは記事を読むことは難

しかったが、平仮名や写真から大体的内容を把握しているようだった。

ネット社会である今だからこそ、新聞に触れさせ、そこから何かを学ばせることは子どもたちのこれから大変意味を持つものである。子どもたちの興味のある物や、掲示の仕方を工夫し、引き続き新聞の良さを伝えていきたい。

また校内研究との関わりにおいて、NIEを取り入れたことによって、「書くこと」に抵抗感を持たずに、進んで自分の考えを書ける子が増えてきた。7年間のNIEの取り組みは確実に子どもたちの「書く力をはぐくむための素地」となっている。

反省点としては各教科の授業における新聞活用があまりできなかったことである。新聞を活用し授業を組み立てられるよう年度当初に単元をピックアップしておかなければならない。



継続的な新聞活用による確かな学力の定着

～NIEという「扉」を全校で～

竹田市立緑ヶ丘中学校 教諭 佐藤 美登里

1. はじめに

本校では『『自主・協働 そして自立』する生徒の育成』という学校教育目標を掲げ、「基礎基本を身につけた生徒の育成」「自分の考えを持ち表現する生徒の育成」「自ら課題を発見し探求する生徒の育成」を重点目標としている。その目標達成のための方策の一つとして、NIEの推進を明示している。本年度も生徒の実態や状況を踏まえ、より効果的かつ持続的な取り組みを全教職員で意思統一し、実践を重ねてきた。キーワードを「扉」とし、コロナ禍であっても次の一步を踏み出すことをイメージした。

2. 実践内容 (①②③…は写真)

(1) 全校「読得(とくとく=造語)タイム」①

①目的

優れた文章に出会い、思考を深め、感性や判断力・思考力を磨く。

②方法

- ・月～木の全授業の終了後、20分間取組む。
- ・学年ごとにスケジュールを組む。
- 《1年》10月まで読書。図書館で借りた本を読み、読破ページ数を記録する。
11月以降、水曜日のみコラム学習。
- 《2年・3年》新聞コラム学習。※
- ・ワークシート(「読得シート」)は複数の新聞のコラムを取り上げ、手作りする。適宜、コラム以外の新聞記事も利用して作成する。
- ・漢字の読みや辞書を使つての意味調べ、3色ボールペンを使った傍線引き、要約、題名つけ、意見文の短作文、書き写し等、これまでのやり方に準じて実施。

- ・全教職員で監督や必要な支援をする。
- ・生徒会学習部の活動内容の中に生徒自身が『『読得タイム』の充実』を掲げ、声掛けや優れた「読得シート」の紹介、掲示も行う。②

③効果

- ・20分間、目的意識をもって臨み、読み書きのために大切な姿勢を維持することに慣れる。
- ・週4回行うことで、生徒が自身の成長や取り組みの様子をメタ認知できる。
- ・新聞記事に触れることで視野や知見を広げることにつながる。
- ・テストでの記述問題の無解答率は極めて低く、記述に対する苦手意識が確実に小さくなる。
- ※昨年度3学期より、竹田市教育委員会がコラム学習のプロジェクトチームを設立。市内の全中学校で3年生を対象に実施。チームリーダーの佐藤とメンバー1名が本校の担当者。

(2) 国語科の新たな「扉」

①休校期間の学習材

- ・3月から5月の大型連休中の家庭学習教材に、コラムの書き写しや記事の要約、意見の記述等をするNIE関連のプリントを作り、家庭訪問の度に回収し、点検。思いの外、好評。
- ・学校再開後、授業で何点か紹介。1年生の国語教室開きでNIEのオリエンテーションもした。「扉」として実に効果的であった。

②3年「写真俳句で句会をしよう！」②

- ・「俳句の可能性」(光村図書 国語3)の括弧に言語活動「俳句を創作しよう」があるので、今回は写真俳句に挑戦させた。流れは以下の通り。

《第1時》

- i) 6月中旬、大分合同新聞の「教えてぶんぶん」で夏目漱石が大分を旅して詠んだ句が、写真と共に紹介されていることを知る。
- ii) 6月12日(金)大分合同新聞の紙面を紹介。(原田記者の記事と写真で「美しい水のカーテン」の見出しと写真で、改修工事中の白水ダムが紹介されていた。原田記者の了承も得て実践。)その写真を素材に、各自で俳句を創作する。

《第2時》

iii) 学級句会

- ・佐藤が読み上げて紹介。後、作品番号と作品のみを並べたプリントを配布。投票。結果待ちの間、感想交流に備え、ワークシートに記入。結果発表と振り返りで括る。

※授業後、通路の掲示板に全作品を展示。原田記者ご本人とご家族の評も紹介。

③1・2年「めくってみよう！新聞6紙」㊦

- ・6月の国語教科書教材1年「情報コラム」、同2年「メディアと上手に付き合うために」の発展学習として位置付け。
- ・学年別に授業を一コマずつ。距離をとれる集会室と廊下で実施。定位置に置いた6紙の記事に目を通しながら、「良い」「疑問」「残念」の3ポイントを各自、付箋に記す。最後に、読み比べた感想を書いて交流。各紙の特長や違いを実感させる契機となった。
- ・付箋は全て掲示板に張り出して紹介。

④1年「ウエルカム・ボードを作ろう！」㊦

- ・昨年度、現2年生の作成したボードを見本に、6紙の記事や広告を活用して作成。新聞は1週間以内のものを準備。いろいろな記事や広告、写真が自然に目に入り、新聞の一覧性に気付き、感想交流も自然になされた。

⑤3年「新聞の新聞を作ろう」㊦

- ・前述②の実践で出た、後輩の素朴な疑問や感想も材料にして、一人一人が6紙のうち1

紙を取り上げ、その特性や魅力を新聞にまとめて紹介し合った。個性の光る作品が並んだ。

⑥1年「やってみよう！つぶやきニュース」㊦

- ・白鷗大学非常勤講師でN I E教育コンサルタントの渡邊裕子先生が広めていらっしゃる「つぶやきNEWS」をアレンジして実践。竹田市教育研究会中学国語部会の授業研究を兼ねた。

- ・授業の流れは以下の通り。文字言語とマスク越しの表情(特にアイコンタクト)での交流。

i) めあて・課題・学習の流れの確認

めあて「やってみよう！『つぶやきニュース』」
課題「どんな良いことがあるか」

ii) 「つぶやきニュース」に挑戦

- 紹介タイム(1人1分)…籤(くじ)で決めたテーマに沿って各自が選んだ新聞記事一つを班で紹介し合う。

- 台紙作り…各班1枚の模造紙を準備。真ん中にタイトルと日付を入れて、新聞記事を貼り、各自のコメントを書く。

- つぶやきタイム…班員が互いの書き込みに「つぶやき」を足していく。

- わいわいタイム…他の班を回り、「つぶやき」を書き足す。

- プレゼンタイム…自分の班に戻り、自分への書き込みを読み、再考し、自分の言葉であらためて考えたことを班内で交流。

iii) まとめと振り返り

- 課題のまとめとして、エックス・チャートにキーワードを並べ、全体で交流する。

- 振り返りとして、やってみてどうだったかを書き、交流する。

(3) 2年道徳・総合的な学習の時間の「扉」

①道徳「行動する建築家 坂茂さんに学ぶ」㊦

- ・10月、道徳の教科書教材からの発展学習。
- ・世界的建築家の坂茂さんに関する八つの新聞記事を各班が一つずつ担当して読み、それぞれの記事から伝わる坂茂さんの人物像をクラ

ゲチャートにまとめ、読み取った事実を交流した後、自分の今後の生き方や進路・職業選択で参考にしたいこと等を個人で考え、全体場で発表。

②総合的な学習の時間「荻のキラキラした大人新聞」(オリジナル個人新聞作成) ①

- ・コロナ禍のため、生徒が楽しみにしていた職場体験学習が中止になったが、地元の魅力的な大人の存在や勤労の意義などについての思いを深める「扉」として、11月に実施。
- ・自分の周りの魅力的な大人1人にフォーカスして、質問する内容を整理し、アポを取り、取り組みの目的や見通しを理解していただいた上で、写真撮影の許可も得て、インタビューに個人で出向いた。2学期末PTA授業参観で個人新聞として完成させたものを、1人3分間でプレゼンした。生徒が相互に温もりと感動を伝え合う時間となった。参観した保護者からも「とても素敵でした」「感動しました」「私達だけで聴くのがもったいな過ぎます」等の嬉しい声と笑顔が寄せられた。生徒も緊張しつつ、互いの良さを再発見する好機にもなり、「面白かった」「楽しかった」「また、やりたい」と言っていた。

(4)「NIEコーナー」という「扉」

- ・毎日更新する「新聞立ち読み場」は生徒玄関、普通教室前廊下、踊り場等に常設。冬場はホームルームに1紙ずつ、当日の新聞を配置し、すぐ読める環境を調えた。
- ・「NIE掲示板」に毎日更新する「1面読み比べ」の他、「竹田・荻のニュース」「高校受験生のページ」「(読得シート)関連記事」「安全・防災コーナー」の常設も継続。
- ・特別教室棟の通路に「広告ギャラリー」^②を新設。休校期間からしばらくは新聞広告が激減したが、コロナ禍ならではの広告が増えたり、日常を明るくしようとするものが徐々に出てきたりする様子が時系列で確認できて、

世相を反映していることにも気付く場になった。

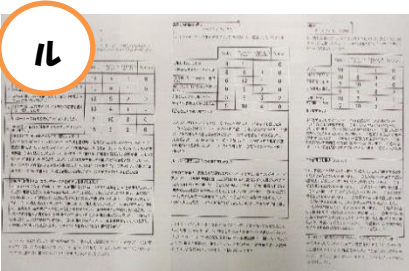
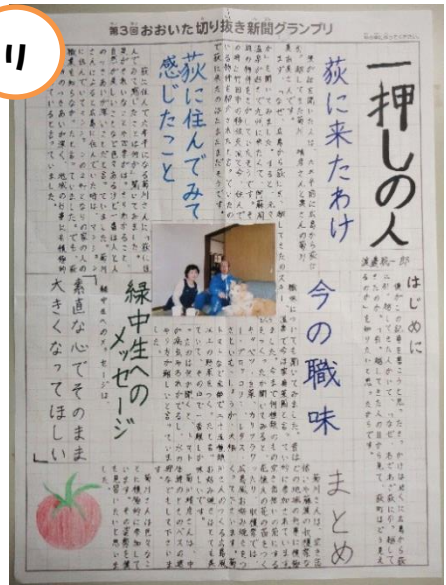
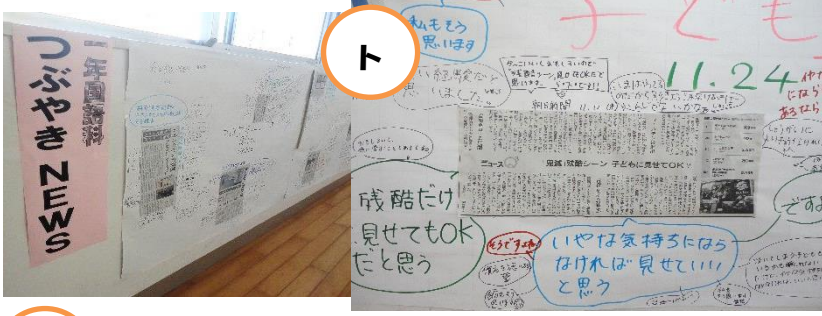
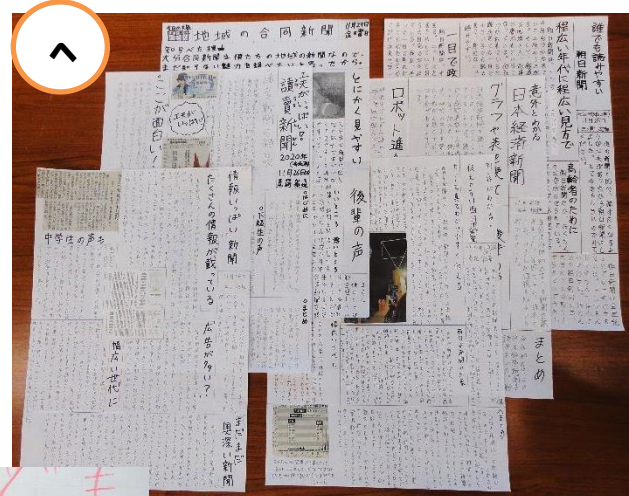
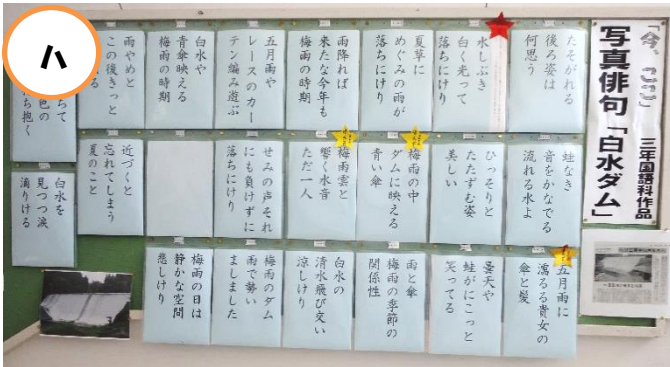
(5) その他

- ・全教職員が道徳や平和授業でも適宜、新聞記事を活用している。
- ・NIE実践指定校ならではの校内環境は、保護者や来校者に驚かれ、感心される。
- ・「新聞配達に関するエッセーコンテスト」「いっしょに読もう！新聞コンクール」「県学校新聞コンクール」「おおい切り抜き新聞グランプリ」等に全校生徒で挑戦。各賞を受賞し、生徒は自信を増している。

3. 成果と課題

- ・学期末や学年末の生徒アンケートで、読解力と表現力の向上について肯定的な回答をする生徒は全校平均で80.1%、3年生で90.0%いる。学年初めの数値から時を追って伸び続けている。アンケートの結果は全て、国語通信で紹介している。⁽¹⁾ 記述の回答も生徒の表記そのままですべて掲載している。「いろいろな新聞を読むと、比べられるし、新聞社の工夫も分かってくる。読解力が上がって、勉強になる」(1年)「速く読めて理解できるようになった。記述がすらすら書けるようになった。テストの成果につながっている」(2年)「読得タイムの効果はすごい。あって良かった。読解力の伸びがすごいので続けたい」(3年)という生徒の声が何よりうれしい。また、保護者や地域の方々からのご声援も頻繁に頂いていて、私達の大きなエネルギーとなっている。
- ・小規模校ながら本年度も、作文、弁論、詩、短歌、標語等のコンクールで数多くの入賞者が出たことも、成果の一つであり、生徒たちに大きな自信をつけさせることにもなった。
- ・実践指定校3年目となった本年度は、これまでに経験したことのない状況で始まった。

時間の余裕はなかったし、割愛せざるをえないものも多々あった。それでも、全校挙げてのNIEに管理職はじめ全教職員が理解と努力を重ねた。生徒のためにという情熱とチームワークの良さを一層感じた。これからも楽しみながら、「扉」を開け、挑戦を続けていこうと強く思う。



社会の出来事を知り、お互いに学び合おう

～「発信」→「交流」→「深める」～

日田市立戸山中学校 教諭 笹倉 直子

1. はじめに

本校は、「社会の出来事を知り、お互いに学び合おう」を目標に、NIEの取り組みを始めた。昨年度は、「新聞を身近なものにしよう」をテーマに掲げ、「新聞記者による出前授業」「切り抜き新聞シート」「朝の新聞タイム」「3分間スピーチ」「修学旅行新聞」「新聞でバッグ製作」「切り抜き新聞グランプリへの応募」「NIEアドバイザー（永松芳恵先生）による職員研修」等に取り組んだ。これらの取り組みにより、それまでほとんど新聞を手にする事なかった生徒が、徐々に新聞に興味を示し始めてきた。記事を読んで感想を書いたり発表したりすることに慣れてだけでなく、その交流を通して友だちの興味のあることや考え方に触れられたことも楽しかったようである。

2年目となる本年度は、昨年度の活動を継続しながら、「深める」ことを目指して取り組みを進めた。記事についての自分の考えを先輩や友達に伝え、そこでの交流や意見交換をもとに自分の考えを見つめ直させたいと考え、「発信→交流→深める」をテーマに掲げた。

2. 実践内容

①朝の新聞タイム

毎週月曜日の朝 15分間を「朝の新聞タイム」と設定し、6社の新聞を自由に選んで読む。



②3分間スピーチ

朝または帰りの学活で、自分が選んだ新聞記事を紹介し、感想や意見を発表する時間を設定。1年生は2学期から、2,3年生は昨年度からの取り組みを続けた。



③新聞切り抜きシートの交流

自分の興味関心のある記事を選び、150字程度で感想や意見を書き、友達と交換し、再度自分の意見を書く交流を初めて試みた。（3年生と2年生の交流や3年生と1年生の交流）



○コロナに関連して使われている専門用語に片仮名が多いのは不安を少なくさせるためという記事。

（初めの意見）・聞いた人のとらえ方によって変わるので一概には言えないと思う。

（交換後の意見）・やはり捉え方はさまざまだが、コロナに関しては、少しは不安があった方が良いので故意に片仮名でなくてもよいと思う。

④N I E教室や掲示の充実

教室には新聞を自由に閲覧できるように常時準備し、廊下の掲示場所には新聞コンクールや切り抜き新聞グランプリの応募作品などを掲示。また、話題となっているタイムリーな記事の掲示も試みた。



⑤ 8月6日の平和学習の取り組み

- 1) 中国新聞（広島）の番組欄（プロ野球）に縦読みで隠れている平和へのメッセージを利用
- 2) 大分合同新聞の「被爆 75 年 明日へのメッセージ」< 1 > < 4 >を利用



⑥ 「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募

初めての応募に全校で取り組んだ。1学期に取り組んだ「新聞切り抜きシートの交流」の経験を活かし、自分の考えをさらに深めるために取り組んだ。

○中国では、性的少数者に対する偏見が根強いという記事の2年生の感想。

「日本ではドラマやドキュメンタリー番組で扱われることが最近よくあります。でも、まだまだ差別されることもあります。私の子どもが、もし同性を好きだと言ったら認めてあげたいと思っています。多様性のある社会が住みやすいからです」



⑦ 「切り抜き新聞グランプリ」への応募

取り組み始めて3年目となる。記事を選んでレイアウトし、感想や考えを書き、完成した新聞をもとに交流した。この応募は指定を受ける前からのもので、生徒が最も意欲的に取り組むものである。本年度は、完成した3年生の新聞を1, 2年生が読み、3年生へ感想の手紙を書くという試みにも初めて取り組んだ。



A 君「何の記事を選んだ？」

B 君「コロナの影響でどんなことが起きているか集めているんだよ。航空業界の赤字は350憶だよ。A君は？」

A 君「A I を使ったバスケットについて。好きな選手のシュートの確率やリバウンドの数がテレビの画面に出てきて楽しく観戦できるよ。」



○コロナの影響を取り上げ、「コロナに負けないぞ」という気持ちを書いた3年生の新聞への感想手紙。

「タイトルの書き方にとても目をひかれました。また、色使いから航空業界の危機感が伝わってきました。私は赤字ということは知っていましたが、こんなにもひどいとは知りませんでした。こんな苦しい時に、クーポン不正取得は許せませんね。収束を願うばかりです」



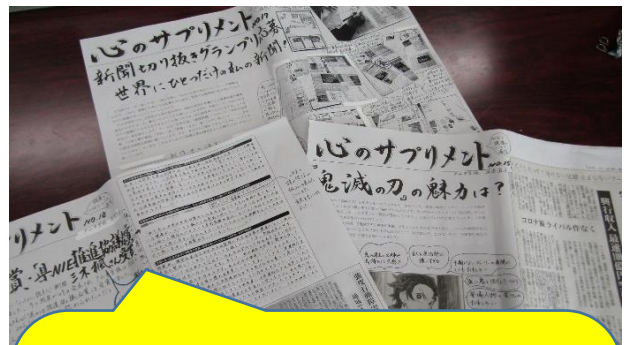
○それぞれの個性を大切にしながら一人一人が安心して暮らせる社会について書いた3年生の新聞への感想手紙。

「カラフルという題名に驚きました。いろいろな色や線の太さなどをまねたいです。バリアフリー化が進んでいるといわれている中でハンディを持っている人が事故にあったり苦しんだりするのはおかしいですね。それぞれの個性を生かせる世界になってほしいです」



⑧NIEと読書に関する通信「心のサプリメント」の発行

中学生に読んでもらいたい新聞記事、応募作品、お薦めの本の紹介などを載せて、担当が月に2回程度発行し、意欲関心を高めるための手段の一つとした。



◇紹介した記事

- ・「天声人語」～「幽霊の日」について (朝日新聞 7.26)
- ・「大分の妖怪」(大分合同新聞)
- ・映画「浅田家」について (大分合同新聞 9.29)
- ・「鬼滅」映画空前の熱狂 (西日本新聞 10.28)
- ・バレーマンガ『ハイキュー』完結 (読売新聞 12.24)

3. 生徒の感想

- ・NIEの活動をするまではあまり新聞を読む機会がなかったけれど、読み始めてからいろいろなことを知れてよかったです。(1, 2, 3年)
- ・新聞は字が多くて苦手だけれど、みんながどんな記事を選んでいるのか知ることができて勉強になります。また、1年生や2年生と交流して、自分の意見をどう思っているのか知れて楽しかったです。そして、書くことで仲良くなれるような気がするのうれしいです。(3年)
- ・「自分の知りたいこと」を新聞でとことん調べたいと思いました。(3年)
- ・最近ニュースをよく見るようになりました。新聞を読んでいるせいだと思います。家でも読みたいと思うようになりました。(1, 2年)
- ・「面白い」「分かりやすい」と思ってもらえる感想や意見を書きたいです。2, 3年生の感想はとても面白くて楽しかったです。(1年)
- ・先輩が自分の感想をどう思っているのかを知ることができるし、アドバイスなどがとてもうれしいです。(1, 2年)
- ・「切り抜き新聞グランプリ」の新聞作りは、初めてで心配でしたが、レイアウトや色を付けていき、どんどん完成に近づいて、出来上がった時はとてもうれしかったです。(1年)
- ・先輩の「切り抜き新聞」はとてもきれいで驚きました。選んだ記事も私の気が付かないことがたくさんあってすごいなと思いました。(1年)
- ・昨年の「切り抜き新聞」よりは丁寧にできたと思います。来年のためにたくさん新聞を読んでおきたいです。(2年)
- ・難しい言葉が多いのでよく分からないところがあります。少し苦手です。(1年)
- ・3分間スピーチの準備をするのがとても大変です。どうまとめたらいいのか難しいです。(1年)

4. 成果と課題

初めて取り組んだ、「新聞切り抜きシート
の交流」(1学期)や「いっしょに読もう！
新聞コンクール」(2学期)への応募は、自
分の感想や意見をうまく伝え合うことが
できるのか少し不安があったものの、多く
の生徒が意欲的に活動に取り組み、意見
交流することを楽しんでいただようである。
新聞の活用を「楽しい」と感じていたこ
が何よりもうれしい。

生徒の書いた考えや感想から、NIEの
活動を通して次のようなことを考えたり、
感じたりしていたと思われる。

- 自分の感想や考えを先輩や友達に読んで
もらえること、そして、共感してもらえ
ることをうれしく感じている。
- 人の意見をもとにして、自分の考えを見
つめ直したり深めたりしている。
- 人の感じ方や考え方に触れ、互いの心の
つながりの効果も現れている。

本年度目指した、「発信」→「交流」→「深
める」のテーマに迫る、多くの成果があっ
たと受け止めている。

また、毎日の「3分間スピーチ」の継続
は、新聞への興味関心が高まっただけで
なく、本校の生徒が最も苦手とする表現
力を高めることにも大きな力となった。
これからも、このような日常の取り組
みを大切にしていけば、思考力・理解
力・表現力の向上も期待できると思わ
れる。

今後は、授業や学級活動の中で、一つ
の記事をみんなと一緒に読み深めてい
くことを試みたいと考えている。そう
すれば、お互いに学び合う中で、人
による受け取り方の違いや新聞の
読み方を学び、今以上に新聞を
読むことに興味を持つだろう。

自ら学び、みんなで学び、社会とつながるN I E

～SDG sの学習を通して～

大分市立戸次中学校 教諭 小野 友祐

1. はじめに

本校の学校教育目標は「ふるさとを愛し、自ら学び、心豊かで実践力のあるたくましい生徒の育成」である。ここでの「実践力」とは、「社会における実践力」である。本校では、生徒と社会をつなぐものとして「新聞」が有用であると考え、N I E実践指定校の2年目を迎えた。

2021年の学習指導要領の全面実施に向けて、「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている。学校教育を通じてより良い社会を創るという目標を社会全体で共有すること。そして、社会と連携・協働しながら、未来のつくり手となるために必要な資質や能力を育成することが、学校現場に求められている。教科書の改定も行われ、新しい学び方を意識した内容になることが予想されるが、どうしても教科書だけでは真の意味で「社会に開かれた教育課程」に近づく限界があると感じている。そこで、本校では、本年度からN I Eの取り組みに、SDG sの視点を取り入れ、新学習指導要領に対応できるこれからの教育の模索を行ってきた。

2. 学校としての取り組み

教育課程（教科・領域）において新聞を利用できそうな内容にNマークを記入し、活用を意識している。また、学校研究においても「導入」や「まとめ」の場面での新聞記事の活用を意識した授業づくりを行ってきた。新型コロナウイルスによる臨時休校の影響もあり、教育課程の遅れを取り戻さないといけないう1年であったが、各教科や総合、学活の時間を用いて、新聞を活用した授業を行うことができた。

(1) N I E及びSDG s研修（全職員）

臨時休校中に、N I Eアドバイザーである校長による研修とSDG sの視点を取り入れたN I Eの在り方について研修を行った。

スライドを用いながら、新学習指導要領とN I Eの関連や、SDG sが掲げる17の目標について理解を深めることができた。研修の最後には、実際に新聞から17目標に関連する記事を探す活動を行った。このSDG sの視点で新聞を読むことにより、あらためて日本や世界の出来事に関心を持つことができた。



*17 目標に関連する記事を掲示するコーナー

(2) いっしょに読もう！新聞コンクール（全学年）

全学年でSDG sの授業を行い、17目標に関する記事を選び、それに対する自分の考えを友達の意見を交えながら表現する活動を行った。最初は、どの記事がどの番号の目標に関連するのか分類することが難しそうだったが、目標の詳細を示した資料を何度も見ながら、自分の気になる記事について意見を書くことができた。最後に、写真に掲載されているように、マーク

を手書きし、持続可能な開発目標との関連性も示した（学校奨励賞受賞）。



*マークを書き込んだ生徒の作品

<生徒の作品>

2020年8月27日付朝日新聞朝刊掲載の『ポリオ・アフリカで根絶』という記事を選び、SDGsの3番「すべての人に健康と福祉を」と関連付けて以下のように自分の考えをまとめた。世界には知らない病気がある。私たちもコロナウイルスという未知の病気と闘っている。大切なことは「正しく恐れる」ことや「相手の立場に立って考えて行動する」こと。正しい知識をもって行動し、いつかこの記事のように病気がなくなることを願っている。

(3) 平和授業の取り組み（全学年）

SDGs 16番「平和と公正をすべての人に」という視点から、新聞を用いて平和授業を行ってきた。12月の授業実践では、全校で「核兵器禁止条約 50カ国・地域が批准」という記事と「WFPがノーベル平和賞を受賞」という記事を用いて、本当の意味での平和な社会とは何かについて議論をさせた。

<生徒の感想>

・僕は飢餓のない世界が平和だと思った。禁止条約は良いことだけど、今世界にある全ての核兵器を無くすには時間がかかる。そうしている間にも、ご飯が食べられずに死んでしまう人がいるから。

・私は核兵器がない世界が平和だと思う。この核兵器に使っているお金を、飢餓で苦しむ人に使ってあげれば、どちらの問題も解決すると思ったから。



*授業の資料として利用した新聞記事

(4) 切り抜き新聞コンクール（1・2年）

気になる記事を集めて台紙に貼り、自分たちの伝えたいことを書き込み、オリジナルの新聞を作成する活動を行った。本年度は、より対話的に社会事象について考えながら活動してほしいという願いもあり、班で協力して作品作りを行った。また、学年ごとにテーマを設定することで、統一感のある作品作りを意識した。



*関連する記事を班で吟味している1年生

<1年生> テーマ=SDGs

- ・米国の差別と分断の問題 (目標 10 番)
- ・九州豪雨による災害/復興 (目標 13 番)
- ・インターネットと新しい時代 (目標 09 番)
- ・大分県の福祉政策 (目標 03 番)

<2年生> コロナと●●

- ・コロナと米国
- ・コロナと医療
- ・コロナとマスク
- ・コロナとワクチン など

本校では、掲示や記事の抜き取りをした後の残りの新聞も含めて、昨年の3月からの新聞を全て保管している。そのため、今回切り抜き新聞をするに当たっても、いろんな時期の新聞からテーマに沿った記事を探すことができた。例えば、「コロナとイベント」という切り抜き新聞では、「成人式」「五輪延期」「花火大会」「クリスマス」など多種多様な記事を新聞から集めることができた。膨大な数の新聞から記事を見つけることは大変だが、生徒たちは新聞をめくりながら、この1年間の出来事を振り返り、工夫して作業に取り組む様子が見られた。

<生徒の作品に書かれた感想>

- ・記事を読んで、思った以上に黒人の方への差別がひどいことが分かった。
- ・医療従事者の方は、強い使命感を持って闘っていることが分かった。

(5) 文化発表会

感染症対策により、合唱やステージ企画が制限された中、N I Eの視点から展示物を中心に、文化発表会の取り組みを行った。

1年生 新聞アート

学級ごとに、テーマに沿った記事を収集し、オリジナルのクリスマスツリーを作成した。いろいろな時期の見出しを切り取り、飾り付けることで、1年間に起きた出来事を思い返せるような工夫をした。また、雪だるまやトナカイなどの立体物の製作も行った。

<各クラスのテーマ>

- 1組: スポーツと動物
- 2組: SDG s (環境)
- 3組: コロナと政治



*左: ツリー 右上: トナカイ 右下: ちぎり文字

2年生 修学旅行新聞 (コンクール: 入選)

2年生は事前に、大分合同新聞社の記者の方へ講師として来ていただき、見出しの付け方や挿絵、写真の位置などのレイアウトのポイントについて学び、新聞作成に臨んだ。昨年取り組んだ、宿泊体験学習の新聞よりもさまざまな工夫が見られ、上達を感じられた。



3年生 平和切り抜き新聞

核兵器廃絶や被爆者の声など、平和に関する記事を集めて、「被爆者の方の話を聴けなくなる日が近づいている。早く核兵器廃絶の方法を考えなければならない」など、それぞれの平和への願いを文字に展示作品を作った。



全学年 音楽新聞（コンクール：奨励賞）

合唱の活動ができなかった音楽科の授業では、音色・リズム・速度・メロディーなど音楽を形作っている要素に注目して、「お薦めの曲新聞」を作成し、授業の中でプレゼンを行った。

＜生徒の紹介文＞嵐の楽曲を紹介。「切なくも明るいメロディー、くじけそうな時でも不思議と前向きになれる」と曲の魅力を紹介している。

（6）社会科授業（3年生）

4紙の新聞から、これからの日本のエネルギー政策について考える授業を行った。扱った記事は以下の4種類である。（SDGs 7番と関連）

- ・A紙…政府は、原発の再稼働は欠かせない
- ・B紙…世界の再生エネの発電量が原発超す
- ・C紙…原発事故2審も国に責任
- ・D紙…川内原発、対テロ施設完成

地球温暖化やエネルギー問題について知識はあったが、リアルタイムでの政府や世界の動きについては学習してこなかった。あらためて新聞を比較すると、「原発利用は発電コストが低く、CO₂の排出もない」と伝えている記事もあれば、「再生エネルギーの発電コストは1kwあたりで考えると、圧倒的に原発と比べて低い」と書かれている記事もあり、生徒も記事を読みながら真実は何か判断し、日本の未来について考えを深めることができた。

＜生徒の感想＞

- ・一般の人にはコストはあまり関係ないと思った。どちらのエネルギーを利用するにしても安全が第一だと思う。
- ・世界が一つの方向に向けて動き出している。先進国である日本も協調して同じ方向に進んでいくべきだと思う。

（7）理科授業（3年生）

「地球の明るい未来のために（自然・人間・科学技術）」という単元において、2月10日に

研究授業を行う予定である。14時間の単元設定の中で以下の学習を行う。

- ①SDGsに関連する記事を見つけ、マークのシールを貼り、分類していく。
- ②理科と関連する記事を選び、インターネットや新聞を利用して情報を収集する。
- ③記事に対する意見や課題を班で考え、他の班から意見をもらう。
- ④③の活動で得た意見を解決するために、再度情報収集を行う。
- ⑤全体にプレゼンを行う。

この授業は、SDGsと新学習指導要領で掲げられている「主体的・対話的で深い学び」のプロセスに沿って行われており、本校の来年度からのNIEの授業の方向性を示すものとなっている。

（8）その他の教科や日常の取り組み

美術科…新聞と自画像の取り組み

防災…九州豪雨の記事から防災マップを作成

掲示…6紙の1面掲示

学活…気になる記事の紹介（帰りの会）

朝学習…NIEワークシート（合同・読売）

研修…新聞記事を用いた職員研修

図書館…SDGsの本の特集

3. 成果と課題

本年度は、SDGsの取り組みに視点を置いてNIEの活動を行ってきた。聞き慣れない言葉で、最初は戸惑うこともあったが、活動をするにつれて、自分たちで新聞を分類できるようになった。来年度は、生徒会活動と新聞活用の関連を意識して、日常的に生徒が主体的になって取り組むNIEを目指し、活動をしていきたい。また、各教科の授業での新聞活用の充実を目指し、新学習指導要領が目指す新しい教育の実現にとって、新聞活用が有効であるということを実証していきたい。

どう楽しむか？

大分県立別府翔青高等学校 教諭 坂口 智子

1. はじめに

本校は、グローバルコミュニケーション科（GC科）・普通科・商業科の3科からなる高校である。

「社会への興味・関心」を養うという目標のもと、当初は朝読書の時間を利用して、毎月2回「朝NIE」を全体での取り組みとして実施してきた。しかし、学校全体でこれまでの活動を見直していく流れの中で、昨年度からは「朝NIE」の取り組みをやめることとなった。また、それまで探究学習や図書館を利用した授業などと協力する形で計画を立てて取り組んできたことが、時間の確保や進捗の関係、諸事情により計画通りに進めることが困難になってきた。

現在は、NIEの取り組みとしては、全体的な計画に基づいた活動は行っておらず、分掌、教科や個人それぞれで新聞を活用した取り組みを行っている。

2. 取り組みの状況

(1) 「探究学習」の取り組み

1年（GC・普通科）2学期

スピーチコンテストへの取り組み

ねらい（GC科）

- ①自分が興味関心を持つ分野において、社会が抱える問題に目を向けさせ、進路意識を高める。
- ②地域や国、国際社会に深く関心を持ち、知識を深め、社会問題に対して意見を持つきっかけとする。

ねらい（普通科）

- ①書かれている情報を読み取り、分析や考察ができる力を身に付けさせる。
- ②スピーチを通して、自分の考えを的確に分かりやすく表現する力を育成する。

新聞の切り抜き速報等から生徒自身が関心を持った記事を選び、原稿を起こし、記事の紹介や自分の感想などを発表した。

2年（商業科）1学期

スピーチコンテストへの取り組み

ねらい

- ①新聞記事の特徴を理解することができる。
- ②興味のある記事を探し、分析するための方法を理解することができる。

2年（普通科）3学期

個人研究のプレステップ

ねらい

生徒が研究したことを生かして小論文・面接・志望理由書に役立て、自らの進路について考えさせる。

切り抜き速報や新聞、ニュースを積極的に見ることで生徒個人の興味関心のあるテーマ（仮）を設定させる。

3年（普通科）1学期

2年時のプレステップを受け、生徒自身の進路を踏まえた上で、本テーマを設定、書籍やインターネット、新聞を用いて情報収集し、個人研究を進める。2学期に各クラスで個人研究発表会。

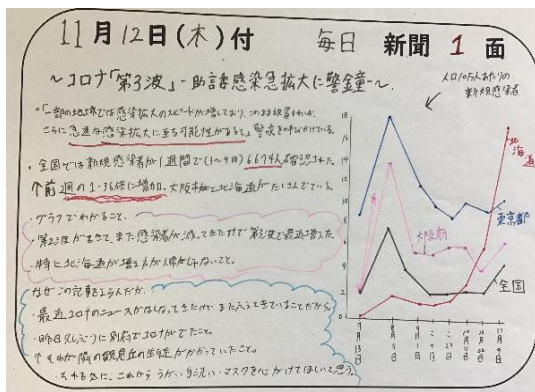
1年と3年については、2月の探究学習全体発表会で代表が発表する予定である。

(2) 図書委員の活動

昨年度からの継続で、図書委員に、新聞記事を選んでコメントを書いてもらって掲示している。前期は3年生2人。後期は各学年から1人計3人で取り組んでいる。昨年度は昼

休みに集めて行っていたが、本年度は週に1回各自に任せて実施した。熱心に取り組んでくれる生徒がいて、カラーペンなども使って、工夫して書いてくれていた。

11月13日(金)付 毎日 新聞 1面
 「コロナ最多 1647人」
 一時期は収束していたコロナウイルスですが、第三波と思われる波がまた知り、すこぶ怖いです。
 また、別府市の高校でも一人感染者が出たので、手洗いうがいを徹底しようと思います。少し息がゆるんでいましたが改めて危機を感じることができました。



11月13日(金)付
 読売 新聞 17面
 2023年度「スカイドライヴ」
 の実用化を目指している。
 e 空飛ぶクルマは、部品点数が少なくて既存の航空機に比べて安く生産できる。
 → 飛行機を積んだパイロットもいない。
 ・大量生産可能な、タクシー並みの料金で乗れるようになるはずと手取りしている。

(3) その他 (個人での取り組み)

計画的に、NIEの活動として取り組んだものではないが、授業やその他の場面で、新聞を活用し生徒に社会の課題について考えさせようと実践したものの一部を紹介する。

現社	長期休業の課題、他 随時	2年	興味のある記事を選び 意見を書く 指導を受けたのちまとめなおす
----	-----------------	----	---------------------------------------

生物	1学期	2年	生物や環境関連で興味のある記事を選び意見を書く
		3年	紹介された記事について意見を述べる(6回程程度)
英語	1学期	3年	SDGsについて記事や本で調べる
HR	随時	3年	当番を決めて、その生徒が選んだ記事をクラスで紹介する

(4) 自分自身の試みとして

○新聞記事のまとめ(選択 国語表現)

5W1Hやその記事が最も伝えたいことなど、こちらが指定した記事からまとめる。

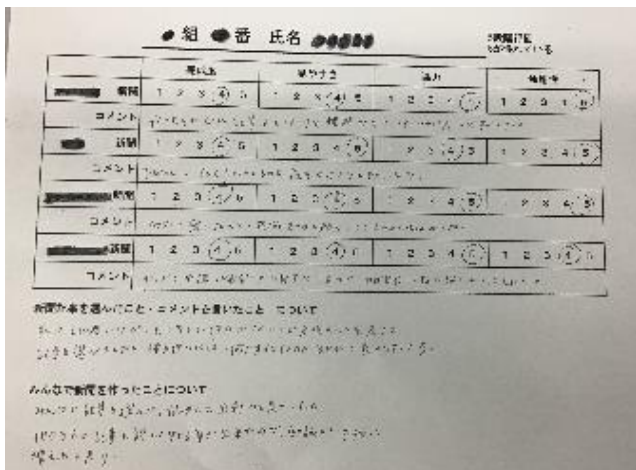
○新聞の切り抜き(選択 国語表現)

4人一組のグループで、各自選んだ記事を持ち寄り、模造紙1枚にまとめる。グループごとに発表する。

模造紙のスペースを持って余している様子だったので、普通の新聞と同じように広告や4コマ漫画を自分たちで考えていいと指示した。こちらの想像以上にイラストが多く、意見をもっと書くように指導すべきだったと反省した。しかし、発表で、ある生徒が「新聞は字が多すぎて彩りも少ないので、絵を多く、色を多く使って見やすくした」と述べていたので、それなりの理由があったと納得したし、生徒の新聞に対するイメージを少し知ることができたようにも思った。

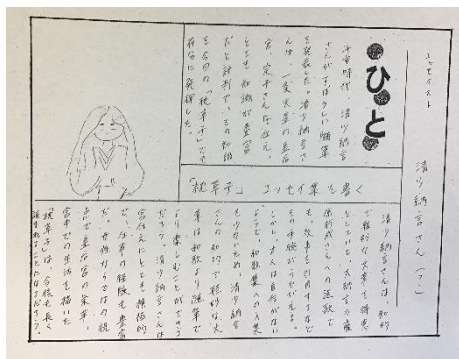
生徒の感想はおおむね肯定的であった。

- いろんなジャンルの記事、考えたことのない内容に触れられて、興味深かった。
- 自分の意見をしっかり持つことができた
- 社会情勢についてしっかり知っていきたい、新聞を読んでみようと思った。



○「ひと欄」を参考に

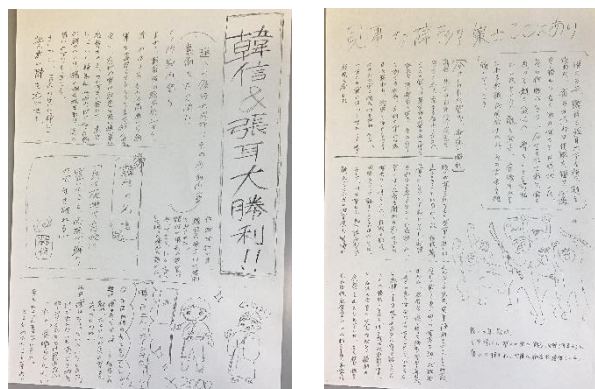
- ・古典「無名草子」「清少納言」と「紫式部」を、「ひと欄」の形式を借りて紹介。
- ・選択国語表現で、本の登場人物を紹介。



選択授業の方では、実際の「ひと欄」の記事を読ませ、インタビューの質問を考えさせる作業も行った。制作にあたり、質問を考えたり、答える形で表現したりすることに苦労していたが、「内容をしっかり読むことができた」という反応があった。

○新聞記事ふう（古典）

「背水の陣」を新聞記事ふうに書いてみる。

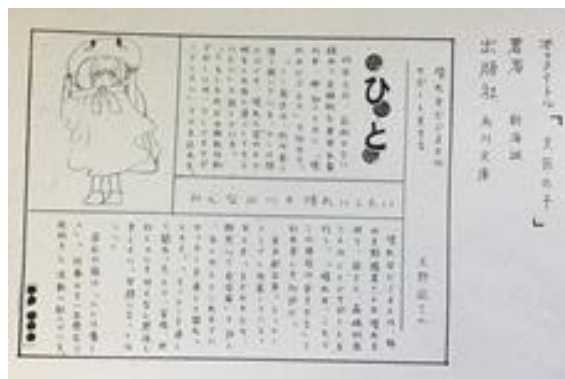


3. 環境整備

(1) 図書館

昨年度からの継続で入り口にホワイトボードを置き、「今週の新聞記事」として曜日ごとの主な見出しを書き出している。入室してすぐの所に新聞を配架し、生徒が手に取りやすいようにしている。また、もともと学校で取っている新聞の古い日付のものを、図書館に置かせてもらうことにし、より多くの種類の新聞に生徒が触れることができるようにしている。本年度は、休み時間に新聞を見に来る生徒がいる。

(2) 新聞閲覧スペース



無料提供期間中は4日分の新聞（2紙）を並べて配架している。後ろ側の掲示板の右側には、「今日の1面何やった？」と題して、当日の1面のコピー（大分合同新聞と毎日新聞）を掲示。中央部には、図書委員の選んだ記事及びコメントと、読売新聞の

「18歳の1票」を掲示。「18歳の1票」は、掲示を終えたものからテーマごとにとじて、新聞と共に置いている。「SDGs」のテーマの時には、ちょうど授業で扱っていた時期と重なったこともあって借りにきた生徒がいた。

本年度は、新聞を時々見に来る生徒がいた。受験のころには、掲示を終えた新聞が欲しいと取りに来た生徒もいた。



また、今年度は商業科の教室近くの掲示板に、当日の大分合同新聞の経済面をコピーして掲示している。閲覧スペースは、商業科教室から遠いので、近い場所に何かきっかけになるものがあれば、というクラス担任の要望を受けたものである。



4. まとめにかえて

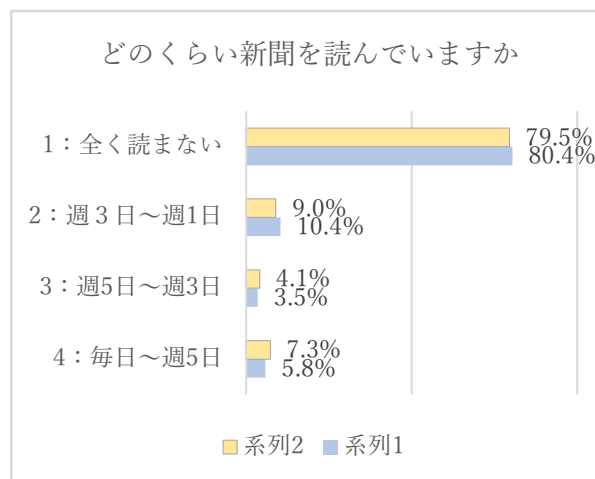
新聞についての生徒の反応

生徒アンケートの結果は、右の表の通り。

系列1 7月10日集計 781人回答

系列2 11月19日集計 753人回答

「新聞を毎日～週5日読む」という生徒は、**昨年度の1月集計の10.8%**から大きく数字を落としている。原因は正直なところ分からない。



選択国語表現（3年 20人）で、新聞についての印象を聞いてみたところ、

- ・知りたいこと、探していることがどこにあるのか分からない
- ・分量が多くて読み取るのが難しい
- ・難しい表現を分かりやすくまとめるのに苦労した
- ・世の中の出来事を知るのに必要
- ・知らないことを見つけた時は楽しい
- ・意外なことが書いてあって楽しかった
- ・見比べてみると記事の内容が異なり、さまざまな意見を知ることができた…等であった。

また、コロナ関連や受験に備えて、新聞を読む機会が増えたかどうかについても、「インターネットで見ることが多いので変わらない」というのが大半だった。

読む機会があれば、それなりに楽しめるが、自分から進んで読むということには苦手意識が強いのかと思う。

今回、自分自身の授業の中で、少し試みることができ、「難しい」と言いながらも、真剣に、楽しんで取り組んでいる印象を受けた。

自分たちで、記事を探したり、実際に新聞を作ってみたりすることは楽しいようで、生徒会や委員会で工夫して広報を作っているところもある。楽しんで新聞に関わる機会をどう増やしていけるのかが課題である。

新聞から社会を学ぶ

～メディアリテラシーの確立を目指して～

別府溝部学園高等学校 教諭 堀井 忠大

1. はじめに

本校は本年度、NIE実践指定校4年目となった。本校におけるNIEの取り組みは、総合的な探求の時間で行われており、年度当初に希望を取る形で選択されている。本年度は、1年生10人、2年生9人の計19人で進めてきた。

スタート当初、新聞に関するアンケートを取ったところ、新聞を購読している家庭が2割にも満たなかったため、本年度は新聞という媒体の持つ情報の信憑性や違いなどを感じ、新聞に親しみを持ってもらうことを中心に据えて、NIEの実践を行ってきた。

2. 学校としての取り組み

学校内での取り組みとしては

- ① 大分合同新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、日本経済新聞を一定期間購読し、「NIEコーナー」を設け、生徒誰もが閲覧できる環境を整えた。
- ② 総合的な探求の時間でのNIEエリアにおいて、各社の新聞に親しむとともに、紙面の構成や記事の比較など、新聞を細かく「見」「学」び、最終的に自分たちで「創（つく）」る活動を行った。

年間の指導計画

- 1) 新聞を「見る」
- 2) 新聞を「読む」
- 3) 新聞を「比べる」
- 4) 新聞を「創る」
 - ① 情報を得る
 - ② 情報を伝える

3. 実践事例

【総合的な探求の時間

1, 2年生NIEエリア】

1 学期の取り組み

(1) NIEについて知ろう (1時間)

0段階としてNIEの取り組みを始める前に新聞に関するアンケートを行い、新聞に触れていない生徒も見られたので、まずは、NIEに関する説明を行った。

内容は以下の通りである。

- ① NIEとは何か？
- ② 各種メディアの特性
- ③ 新聞の違い

(2) 新聞を読んで書いてみよう！

第1段階

～記事選び

学校で定期購読できる新聞6紙を約1週間分用意し、各自その中から気になった記事を選び、簡単な理由とともにワークシートに記入していくことから始めた。

～新聞の構成

他の記事や4コマ漫画、広告、コラムなど、さまざまな要素で新聞が構成されていることを確認した。

～記事を「読む」

コラムの感想を書くという作業を行い、新聞を「見る」こと、「読む」ことを行った。

第2段階

第1段階を2回繰り返した後、一番気になった記事を選んでおいてもらった。その上で次の段階へと進んだ。

～記事比べ

気になった記事が掲載されている日付を確認し、その記事を異なる新聞で比較した。

実際に記事を切り抜いて比較することにより、見出しや記事の長さなど目に見える形で比較し、その後各新聞社による注目度や見解の相違を見つけられるようにワークシートにまとめた。

～読み比べ

ワークシートに貼り付けた記事を読み取り、新聞社ごとの意見の違いを感じさせた。

表現の違いや意見の違いを読み取り、ワークシートに記入することで簡単にまとめさせた。

～4コマ漫画の比較

4コマ漫画を見て、伝えたいことやテーマを考え、発表することを行った。ここでも各紙の見解の違いなどを知ることができたようだが、意外と苦戦していた。

2学期の取り組み

(3) 各種メディアについて知る

前学期で新聞については触れてきたが、あらためてマスメディアについて確認した。

取り上げたメディアは

- ①新聞
- ②テレビ
- ③ラジオ
- ④インターネット
- ⑤本(雑誌)
- ⑥そのほか(口コミなど)

確認した内容

- ～信憑性
- ～即時性
- ～見解、立場の相違
- ～典拠価値

最もよく利用するメディアの確認を行ったところ、多くの生徒がインターネットのみでの情報収集をしていることがあらためて判明した。そのため、各種メディアの違いを確認した上で、新聞の持つ特性を確認させた。

(4) 新聞を「創(つく)る」

各種メディアの特性を理解した上で、「SDGs」について、調べ学習に入った。

「SDGs」の内容を説明し、項目を絞ってメディアの特性を考慮した上での調べ学習へと進んだ。

本年度は「貧困」「食糧」問題に限定して、7グループに分かれ、以下のように新聞を作成した。作成する際に

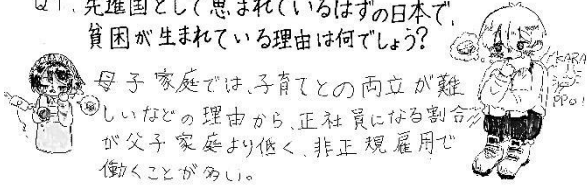
- ①信頼が置けるデータを参照すること
→複数のデータを照らし合わせることで信頼性は上がる
- ②複数の記事を読み、共通点を探ること
- ③その上で自分たちなりの解決策を提示することを指示した。

その上でできた新聞を以下に例示する。

「貧困問題」、特に日本における貧困問題に目を向けたグループ。

SDGsの貧困について

Q1. 先進国として恵まれているはずの日本で、貧困が生まれている理由は何でしょう?



母子家庭では、子育てとの両立が難しいなどの理由から、正社員になる割合が父子家庭より低く、非正規雇用で働くことが多い。

Q2. 「貧困」には多様な意味合いがあります。どのような意味合いがあるでしょう?

- ・貧しくて生活に困っていること。
- ・大切なものが欠けていること。
- ・内容に乏しいこと。



Q3. お金持ちと貧困に悩む人達の格差をなくすには、私達が力を合わせて出来ることは何でしょう?

少しでも多くの事を知って、その低い価格で売れるお物を作る人や、貧困の人達をサポート出来る人や、などを応援する事で、貧困をなくしていきたいです。

「食糧問題」を調査したグループ

Q1 日本の食べ物、世界から輸入した食べ物にはどんなものがあるか?

A. (例) ...とうもろこし、大豆、牛肉、小麦...

Q2. 世界の人口増加推移と、食料生産の推移と関連づけてみよう。

A. 世界人口
2014年 → 70億人
2030年 → 85億人
↓ 40年後

2050年には食料生産が減っている。

Q3. 限られた食料生産を保ちつつ、世界の食料不足を解決するには、どうすれば良いでしょうか?

A. 食料廃棄法を定めた。

(消費期限切れ食品の廃棄を禁止するような法律です。)



「貧困問題」を高齢化社会と結びつけて

SDGs 貧困について

Q1 高齢化が進んで65歳以上の年金暮らしが増えたから。

⇒ もらえる人が限られる (若い世代が受えなければならぬ負担)

Q2 貧しくて生活に困っていること
大切なものが欠けていること

Q3 後発開発途上国や開発途上国は先進国との貿易において適正な価格での取引が望まらず、生産者が適切な収入を得られないこと、少なくとも、平等な貿易を行うことが必要と思ふ

「貧困」の解消に関する意見をまとめたグループはさまざまなデータを探し出し、比較対照することにより、自分たちの解決法を見出すことができていた。

「食糧問題」について考察したグループは、「フードロス」に関する記事を新聞で見つけて気になったらしく、インターネット上の記事や法律について、消費者庁のHPなども調査していた。

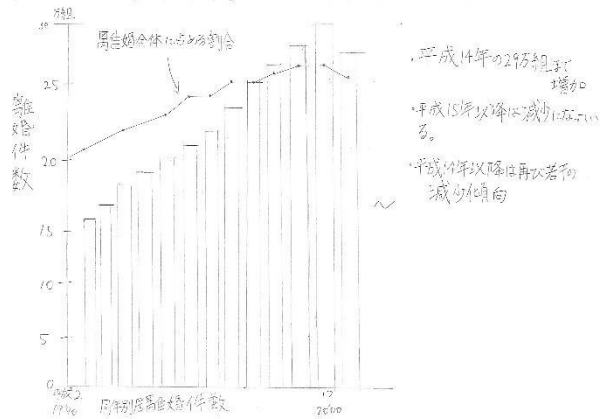
SDGs 貧困について

Q1. 日本で貧困が起きている理由

- ・収入が少ない
- ・母子家庭は正規の職に就くことが困難
- ・1997年以降離婚件数増加
- ・母子家庭上昇
- ・正社員になる割合が父子家庭より低い
- ・バテなどの仕事で働くことが減っている。

Q2. どういう社会を作るのか
子供を預かる場所を作り
親の精神的心を守る。

Q3. どうすれば預かる場所を作れるのか?
子供の人数が最低限 幼児が2人、小学生が3人、高校生が1人、というように、衛生面に気をつけなければならない。



(5) 新聞を「公開」する

今後、作成した新聞（ポスター）を発表する場を設ける予定である。

4 実践成果と課題

小学生の時から新聞に触れてきていると考えていたが、日常生活で触れる機会が少ないため、「新聞」に対して苦手意識が生まれているように感じられた。本校では学校で新聞が読めるコーナーを設置しているが、あまり利用している様子も見られない。コーナーの充実が今後の大きな課題である。

実際に、NIEに取り組んでいる生徒以外にも「もっと新聞に触れたい」という生徒の声も聞かれた。

自由に新聞に触れ、通常の授業においても新聞を教材にすることが必要であることを感じさせられた。

新聞を通して考える 社会と自分

～新聞を通してさまざまな文章に触れる機会の確保～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 道中 聡

1. はじめに

昨年度の担当から引き継いでNIEの担当となり、どのような活動や授業を行おうかと考えている中で新型コロナウイルスの影響により、休校を余儀なくされた。それからはZoom朝礼やYouTubeによる動画配信など、休校中の対応と学習機会の確保に追われ、NIEについては計画通りには実施できていないのが正直なところである。しかし、将来振り返れば歴史の転換点となっているであろう現在において、新聞を通して現在を、そして自分を見つめることのできるような授業を展開する必要性を痛感している。

また、令和3年1月16、17日に行われた初の大学入学共通テストの国語では、試行調査で見られたような実用的な文章は出題されなかったものの、複数のテキストを比較して読む問題が出題された。他の教科においてもリテラシーの重要性はより一層高まっており、新聞に親しみ、新聞を活用する能力の育成を図りたい。

これまでのNIEの活動については、教員のスキルによって大きく差があり、以下に紹介する諸活動についても組織立っていないものが多い。継続的に行うべきものであるからこそ、NIEの活動を認知してもらい、組織的な活動へとつなげていきたい。

【実践の目標】

- 1 新聞を通し、生徒の社会への関心、読解力、思考力・判断力、表現力を育成する。
- 2 生徒が自発的に新聞を調べ、進路目標の設定および達成に資するものとする。
- 3 学年、教科、図書館等の連携の取れた組織体制を構築する。

2. 実践事例

(1) NIEコーナーの設置

中央階段1階と2階の踊り場壁面に設置している。生徒の多くはここを通過して教室に向かうため、足を止めて見ている生徒も多い。



階段踊り場のNIEコーナー

- ①6紙の各1面（平日の朝、コピーしたものを掲示）、②生徒の活動が載った記事の切り抜き「舞鶴魂の体現」、③コラムの比べ読みプリント、以上三つを常時設置している。）



コラム読み比べ（読売・毎日・朝日・西日本・大分合同）

(2) 各種コンクールへの応募

①いっしょに読もう！新聞コンクール

全国奨励賞1名、
大分県NIE推進協議会賞1名。



「自分をいつか手話で心を通わせたい」と願う猪ヶ倉怜菜さん

奨励賞・猪ヶ倉怜菜さん
大分舞鶴高校1年

手話を学ぶ機会広がれば

大分市が策定した「こどもが手話言語条例」の策定について、市が市民の意見を広く募集しているという記事(大分合同新聞7月20日付)を題材に選んだ。大分で手話を言語化する取り組みが進められているのがうれしかったことが理由だ。
小学生の時、聾覚障害者センターを見学し、手話の多様さや一般の言語とのつながりに興味を持った。高校入学後、「自分を

できることがあるのでは」と独学で手話を学び始めた。業教師の母から聴覚障害者と手話で交流した話を聞き、より一層身近に感じたい。受賞は「自分だけで」と笑顔をみせる。将来は福祉関係の仕事に就きたいという。「外国語を学ぶように手話を身に付ける機会が広がれば、聴覚障害の方々も生きやすくなる。自分もいつか手話で心を通わせたい」と願っている。

(2020年12月30日付 大分合同新聞)

②おおい切り抜き新聞グランプリ

1月中旬に応募。

1年生全員に対し、①は夏季休業中課題、②は冬季休業中課題として取り寄せた。どちらも300を超える数の作品を応募した。

①については新聞を購読していない家庭への配慮や読む記事の水準をそろえたいという意図もあり、教員の方で10種類程度の記事を準備し、その中から選んでもいいし、自分で決めてもよいとした。

②についてはNIE実践指定校が受けることのできる年間購読を利用し、2カ月分ほどの新聞を教室前廊下に設置し、自由に切り抜いてよいものとした。

生徒によって取り組みの差はあるものの、おおむね積極的に取り組んでいた。中にはこちらが驚くようなクオリティーのものもあり、思考の跡がうかがえた。

(3) 読売新聞への投書

読売新聞から依頼を受けて、同紙気流欄「NIE投書編」への投書を行った。

「オンライン授業の賛否」というテーマで1年生全員に現代文の授業の中で600字程度の小論文を書かせ、送付した。読売新聞の方で賛成・反対それぞれから1編が選ばれ、1月26日付朝刊に掲載された。

小論文を書くことは授業内外でよく行っているが、新聞に掲載される可能性があるということはモチベーションとして良かったようである。

2021年(令和3年)1月26日(火曜日) 読売新聞

投書

気流

オンライン授業

NIE投書編

2020年9月1日掲載の投書要旨

オンライン授業はともよいと思う。短い文章でやり取りするチャット機能で参加ができるから、質問しやすい。授業の味も参加しやすい。授業内容は録音されているので、何度も見て、学ぶことができる。

川崎市にある公立の中学校。生徒数約59人。授業の特別にかかわらずに学ぶ「インクルーシブ教育実践推進校」の協定校。共生社会の実現を目指し、授業に取り組んでいる。

高年齢家族と同居 リスク減

1年 矢吹 春夢 15
【賛成】 オンライン授業に賛成です。祖父母と同居して、同じ場所で学習をしています。高齢者や持病がある人は、新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすいからです。自分の都合と取り、家族が感染するような事態はとも嫌です。
人との接触を避けるために、自転車通学をしています。でも、体の授業はデスクしていない人がいたり、体調不良を隠して登校したりする人がいるので、不安を感じています。
オンライン授業なら人の接触はありません。自分のペースで学ぶことができます。
子どもは重症化リスクが低いので対面でも大丈夫という考えの人もいますが、高齢者との接触という事柄にも配慮してほしいです。

意見交換減り 孤独感

3年 米島 真央 17
【反対】 オンライン授業は対面以上に人に、人と交感を感じることで対面以上に。自宅での学習は、スマートフォンやテレビ、タブレットの機能が多く、学びやすい環境です。対面授業なら雑談や声援で励み、同じような意見交換をすることで、新たな知識や学びの機会も多いです。オンライン授業だと、チャット機能を使っても会話が減り、孤独感を感じてしまいます。
私は昨年の1学期、オンライン授業や分散授業体験しました。新しい友人はたくさん、新しいクラスにもなじみませんでした。学校と同じ時間を過ごして性格などを知ること、友人はできません。家にじこもり、同じような気持がきかぬような日々が続いてしまいました。

ICT親しみ良い機会

1年 江藤 未来 15
【賛成】 新型コロナウイルスの感染が拡大している現在の社会では、オンライン授業というシステムがとて素晴らしいと感じる。勉強で疲れたリフレッシュをしながら、対面授業とは大きく異なる点だ。一度きりだと内容を整理できないことがある。自分のペースで学習できる点と課題も自分でやれ、また、チャット機能を利用すれば、先生と質問も簡単にできる。
私の学校は前回の運動会練習中、ウェブ会議システムで「オンライン朝礼」を行った。最初は不安を感じていたが、担任の先生の話もしっかり聞くことができ、問題なかった。
今回の記事を学ぶ機会が、自分から積極的にICTに親しみ機会を増やす意味でもオンライン授業は役に立つと思う。

緊張感なく集中できず

1年 山本 実由 16
【反対】 授業は対面だからこそ、多くの学びを得られるのではないだろうか。
対面授業では、先生が授業の進捗に合わせて質問をしてくれるし、ちょっとした疑問があれば友人に相談することができるので、勉強の意欲の低いレベルな空間となる。
高校入学後、新型コロナウイルスの感染対策のためにしばらくの間、登校することができなかった。自宅では学校のような緊張や集中感がないので、気が散りやすい状態で授業の準備ができていた。勉強に身が入らず、対面授業の大切さを実感した。
オンラインには疑問を質問するなど良いもある。そのメリットを上手に活用しつつ、基本は対面授業がいいのではないだろうか。

(2021年1月26日付 読売新聞)

(4) 現代文平日課題「新聞記事を読む」

3学期から毎週水曜日に提出する課題として、社説に書かれていることを簡単にまとめ、自分の考えを書くというプリントを配布している。生徒の負担を考え、5～10分程度で取り組めるものとしている。小論文対策のほか、社説という文体に慣れる、自分の考えをコンパクトにまとめることなどを目的としている。提出されたものは現代文担当者が目を通し、返却している。

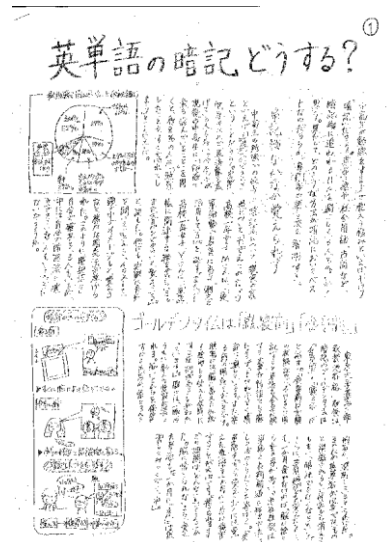


A4サイズのプリント。大分合同の社説がサイズの的に丁度いい

(5) SSH普通科探究講座

本校はSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されており、理数科が特に独自の研究活動を行っているが、普通科においても探究活動を行っている。1年次の1学期は「SSH探究講座」と銘打ち、各教科で工夫を凝らした探究活動を行っている。国語の講座では「伝える言葉」と題して、書き言葉のお手本ともいえる新聞記事を題材にして、どのようにすれば伝えたいことを間違いなく、かつ読者の興味を引くように記事を書くことができるのか？ということを探した。具体的には4時間の単元で、新聞記事を読んで客観的文章の書き方を学び、

各自で興味のある話題について調べ、それを見出しとともに記事にまとめるという活動を行った。生徒は大変意欲的に取り組み、どのようにまとめるかの難しさを感じるとともに、見出しやレイアウトに工夫を凝らしていた。



3. 実践の振り返りと今後の課題

本年度NIE活動を主に行った1年生にアンケートを実施した。(1月25日実施)

1. あなたは日頃、新聞（Web版を含む。ネット記事は含まない）をどの程度読んでいますか。最も近いものを一つ選んでください。



毎日読む	5.0%
1週間に2～3回	22.3%
1か月に2～3回	26.8%
1年に2～3回	26.0%
全く読まない	20.9%

2. あなたはNIEの活動を通して、新聞に対する興味関心や親しみが増しましたか。



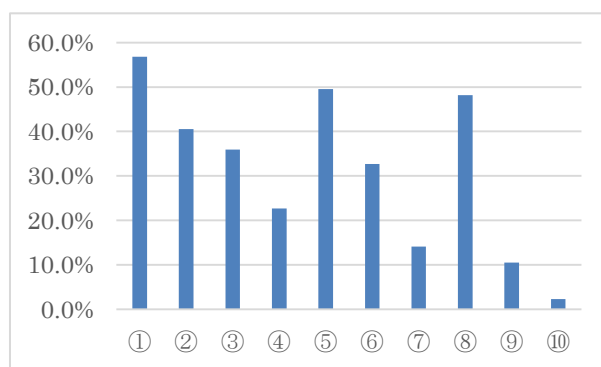
大変増した	5.9%
やや増した	60.0%
変わらない	33.2%
やや減った	0.1%
大変減った	0.1%

3. あなたはNIEの活動を通して、読む力や書く力、考える力が増したと思いますか。



とてもそう思う	9.1%
ややそう思う	56.0%
変わらない	33.6%
あまり思わない	0.1%
全く思わない	0.1%

4. 高校に入学してから新聞を活用した授業や取り組みを通して多少なりともできるようになったと思えることは何ですか（複数回答）。



① 時事問題を知る	56.8%
② 語彙力が身につく	40.5%
③ 文章を読むのが速くなる	35.9%
④ 文章を分かりやすく書く	22.7%
⑤ 情報を選択する	49.5%
⑥ より深く思考する	32.7%
⑦ 自他の違いが分かる	14.1%
⑧ 視野が広がる	48.2%
⑨ 他者の話を聞き取る	10.5%
⑩ なし	2.3%

上記のように半数程度の生徒が年間数回以下しか新聞を読まない現状の中で、新聞を用いた活動はある程度の効果を上げていることが分かった。今後も新聞活用の機会を確保しつつ、学校全体への取り組みへと波及させる工夫と体制作りを行っていききたい。

■ 初めてオンライン開催を試行／N I E実践研究会

教員の自主研究組織「大分県N I E実践研究会」は本年度、新型コロナウイルス感染防止のため8月まで活動の休止を余儀なくされました。研究会は9月12日、半年ぶりに活動を再開。10月10日に大分市の大分合同新聞社で開いた第90回研究会では初めてオンラインでの参加も受け入れました。県教育センターの田邊玲子指導主事兼課長補佐が講師となり、自分が暮らす地域に関する記事の中から、「心が温まる」と感じた記事を切り抜き、台紙に貼り付けてオリジナルの新聞を作りました。県内の教員5人と県外に住む教員志望の大学生らがオンラインで参加。会場の参加者とビデオ会議システムを使って交流しました。臼杵市佐志生小学校の永松芳恵教頭による実践報告もありました。



■ 5人が活発に意見交換／第5回N I E子ども会議

2016年のN I E全国大会大分大会をきっかけに始まり、5回目を迎えた「N I E子ども会議」が5月13日、大分市の大分合同新聞社で開かれました。県内の小



中学生と高校生5人が登壇。「心に残ったN I Eの授業」や「N I Eで付いた力や役に立ったこと」のほか、「新型コロナウイルス感染拡大で学校生活はどう変わったか」などについて、N I Eアドバイザーの平山立哉・大分市立津留小学校教頭の司会で意見交換しました。

児童生徒は、コロナに関する情報を新聞から読み取って新しい生活習慣を考えたり、給食時間の校内放送でその日気になった記事を発表するなどN I Eの取り組みを発表。新聞活用によって「読む力や語彙力が付いた」「世の中の出来事がつながっていることが分かった」などと話しました。

＜発行＞2021年4月

大分県NIE推進協議会事務局

〒870-8605 大分市府内町3-9-15(大分合同新聞社地域連携室内)

☎097-538-9729 fax097-538-9810 ✉nie@oita-press.co.jp